「彫刻のあるまちづくり」先進事例検討

(1) 事業形式

彫刻設置事業の形式	事業概要
民間企業等からの寄贈	民間企業や団体、区画整理事業組合等が記念碑として設置し、市に寄贈する
コンクール	コンクールを開催し、入選作品を市内の適切な場所に設置する
オーダーメイド	設置場所及び場所に見合う作風の作家を選定し、その作家に現地を見てもらった上で、その場所にふさわしい作品を制作してもらい、設置する
シンポジウム	作家に依頼し、作家が1ヶ月程度まちに滞在しながら一般公開で作品を制作し、設置する
市民参加	作家の候補及び設置場所を選定した上でワークショップ等を開催し、場所に相応しい作家及び作品を市民が決定し、設置する
大学との連携	協定等を締結した大学の、学生や先生が制作した作品数点を選考し、市が買取って設置する

(2) 運営体制

- 彫刻の設置場所や作品等を審査する彫刻設置選定委員会や、彫刻設置のあり方の議論を行う委員会を、市の内部組織として立上げ運営している。
- 展覧会を開催している市町村では、市の外部組織として実行委員会等を立上げ運営している。

(3) 予算規模

- 彫刻のあるまちづくりを先駆的に行ってきた市町村では、展覧会1回あたり7000万～1億円かけているところもある。
- 著名な作家の作品は、1点だけで200万円かかるものもある。
- 上記のように予算規模が大きいこと、また作品を増やせば増やすほど維持管理費も必要となることから、現在では事業を止めている市町村が多い。
- 一定期間に限って国の補助金を入れていたところもあるが、基本的には、市の一般財源で実施している。
- 現在も継続している市町村の中には、予算規模を毎年600万円程度に抑えて実施しているところがある。その分地元作家の熱意により、運営を成り立たせている。

(4) 設置場所

- 主要施設のシンボルとして設置している場合と、多くの彫刻にふれあえる公園やプロムナードとなるよう集中的に設置している場合がある。
- 展覧会やシンポジウムを行う場合、仮設展示を行う会場の確保が必要となる。
- 作品を多く設置してきた市町村では、設置箇所が飽和状態であり、中にはあまり市民に親しまれていない作品もあるが、なかなか移設や撤去に踏み切れないといった悩みを抱えている。

(5) 詳細事例

市町村	彫刻設置の主な形式	特筆事項	作品設置期間	現在の所管	設置作品数	主な設置箇所	関連事業 (市町村で行う作品の一般的な維持管理以外)
山口県宇部市	コンクール	彫刻のあるまちづくりの先駆け。 野外彫刻展(現在は「UBEビエンナーレ」という名称)を開催し、入賞作品を市内に設置している。24回開催。 なお、平成24年2月から5月まで、UBEビエンナーレの今後のあり方を考える委員会を開催した。 そこでは、彫刻に携わるボランティアグループ等の連携や市民が参加し彫刻設置について広く議論するための市民委員会(常設)の設置や、ビエンナーレ運営体制の強化、市民総参加で彫刻に親しめる仕組みづくりなどが提言された。	1961～現在 (隔年)	ときわミュージアム	160作品	常盤公園、中心市街地の平和通・常盤通、真締川公園、宇部市立図書館、山口宇部空港等々に集中的に設置	彫刻ウォーキングマップの配布 ボランティア組織:宇部市ふるさとコンパニオン(彫刻ガイド)、うべ彫刻ファン倶楽部(彫刻清掃)
北海道旭川市	コンクール	近代彫刻家・中原梯二郎のゆかりの地として、全国の発表済み作品を対象に、優秀作品を選定し中原梯二郎賞を選考、贈呈すると同時に、受賞作品を買い取り、一部を市内に設置している。37回開催。	1961～現在 (2003年より隔年)	旭川市彫刻美術館	63作品	平和通買い物公園(歩行者天国)、七条緑道、常盤公園、各橋梁及び河川敷、北海道療育園彫刻の森等に集中的に設置	ボランティア組織:旭川彫刻サポート隊(彫刻清掃)、ボランティアの会「みゆうず」(美術館運営)
長野県長野市	コンクール オーダーメイド	当初は全国で開催された展覧会に出品された作品の中から、設置場所に相応しい作品を長野市野外彫刻賞受賞作品として購入、設置していた。 平成9年以降は、作品ではなく作者自身を受賞作家として選考し、作家自身による現地視察を経て、環境に調和する作品を制作してもらい、市内に設置している。38回開催。	1973～現在	教育委員会 生涯学習課	141作品	城山公園、南長野運動公園、長野大通り等に集中的に設置	野外彫刻めぐり 野外彫刻写真コンテスト
石川県金沢市	寄贈 大学との連携 コンクール	金沢美術工芸大学があることから、学生や先生が制作した作品を、区画整理事業の竣工記念碑等として寄贈を受けたり買取ったり、また彫刻展を開催することにより設置してきた。 また2004年の金沢21世紀美術館オープンに伴い、金沢駅と美術館をつなぐ大通りをアートアヴェニューと位置づけ、2004年と2006年には国際コンペを実施し、入賞7作品を設置した。 2005年には金沢まちなか彫刻設置基本方針を策定した。そこでは①環境にふさわしい彫刻作品の設置、②新設作品の設置のあり方や③既存作品の再構成のあり方を金沢市まちなか彫刻設置委員会において検討するしくみ、④重点地区の設置、⑤世界に開かれたコンクール形式の彫刻設置、⑥市民に親しまれる彫刻愛護の推進が打ち出された。	1982～2006	企画政策課	164作品	白鳥路(金沢城公園)、金沢駅前広場、アートアヴェニュー、中央公園等に集中的に設置	金沢まちなか彫刻見て歩きマップの配布
宮城県仙台市	オーダーメイド	1年に1点を市内に設置。	1977～2001	百年の杜推進課	24作品	定禅寺通緑地、台原森林公園、榴岡公園等、主に公園緑地、広場に設置	彫刻のあるまちづくり応援隊(彫刻の洗浄、彫刻めぐりガイドボランティア)
愛知県碧南市	オーダーメイド 寄贈 シンポジウム	碧南市民憲章推進協議会の中に、碧南の彫刻のあるまちづくり専門部会を設置して、事業を開始した。 仙台に倣って1年に1体を基本としたが、区画整理事業等の竣工記念碑の寄贈、国際野外彫刻シンポジウム開催等で設置したものもある。シンポジウムでは市内在住の若手作家と日本に留学中の作家が暫定的に公園となっていた場所(県所有)で公開制作し、その後市内に設置した。	1983～1995	碧南市藤井達吉現代美術館	24作品	臨海体育館前、文化会館前、中央駅前川口公園等、主要公共施設にシンボルとして設置	小中学生を対象にした絵画コンテスト 野外彫刻フォトコンテスト
愛知県半田市	オーダーメイド コンクール	半田市彫刻のあるまちづくり基本構想・基本計画を策定し、事業を開始した。 仙台に倣って1年に1体を基本としたが、市制55周年の記念事業としてコンクール形式の彫刻展を開催し、入選10作品を市内に設置した。	1986～1996	都市計画課	23作品	任坊山公園、福祉文化会館、市役所玄関前等、主要公共施設にシンボルとして設置	特になし

市町村	彫刻設置の主な形式	特筆事項	作品設置期間	現在の所管	設置作品数	主な設置箇所	関連事業 (市町村で行う作品の一般的な維持管理以外)
鳥取県米子市	寄贈 シンポジウム	辻晋堂、流政之など近・現代彫刻家のゆかりのまちとして、多くの作品を市内に設置している。来待石の産地であることから、1988年から石を用いた彫刻作家を招待し、公開制作を行うシンポジウムを10回開催した。1995年には彫刻のあるまちづくり基本計画を策定した。	1988～2006 (隔年)	文化課	58作品	彫刻ロードに集中的に設置、その他主要公共施設にシンボルとして設置	ふれあい彫刻教室(来待石を使い、招待作家から手ほどきをうけながら彫刻制作体験)
新潟県十日町市	シンポジウム	北越本線の開通、当間高原リゾートのオープンに伴い、野外彫刻によるまちづくりを開始。1995～1997年の3か年では国の補助金を投資し、彫刻プロムナードの整備を公開制作で行った。1998年以降は規模を大幅に縮小し、一般財源により事業を展開しているが、地元の作家を中心に組織する十日町石彫シンポジウム実行委員会の熱意により、今日まで17回シンポジウムを開催している。制作した作品は既存の商店街の歩道に設置している。	1995～現在	生涯学習課	77作品	十日町駅から続くグリーンロード及び商店街の歩道に集中的に設置	石彫クリーンアップウォーク 市民彫刻教室(招待作家から手ほどきをうけながらの制作体験)
東京都足立区	オーダーメイド コンクール 市民参加	足立区まちづくり公社によって事業が進められた(2012年3月31日に公社解散)。1988年に「彫刻のまち基金」を設け、当初は扇彫刻のある公園や竹の塚彫刻の道などに招待作家による作品を設置していたが、1989年より、専門家だけでなく設置地区の区民も加わって審査する方式のコンクールを13回開催した。なお、「彫刻のまち基金」はその後の景気低迷により廃止され、以降、一般財源により事業を行っていた。また平成6年には、事業方法に関する検討を都市景観審議会で実施した。	1988～2004	まちづくり公社解散後は彫刻設置箇所の所管課が維持管理	68作品	扇彫刻のある公園、竹の塚彫刻の道に集中的に設置 各プチテラス(ポケットパーク)、公園等にシンボルとして設置	特になし
福岡県福岡市	寄贈 市民参加	1983年に彫刻のあるまちづくり計画を策定したが、これによって積極的に彫刻設置を展開していたわけではない。計画は、民間団体等からの寄贈や記念碑の設置等があった時の設置方針として活用していた。 平成13年頃に2回程度、市民参加のワークショップを開催し、地域に見合った作家・作品を市民が選定した上で設置する試みを行った。 現在、彫刻のあるまちづくりは、景観施策のひとつに位置づけ、福岡市都市景観形成基金を設置し、これによって今後彫刻を設置するしくみとしているが、現在目処は立っておらず、基金は、景観に関する紹介パンフレット等の制作費用等に充てている。 一方で、大規模開発があった際には、民地(公開空地等)に彫刻を設置してもらえるよう誘導している。 今後のあり方を模索するため、今年度、「彫刻のあるまちづくり懇話会」を実施しているが、懇話会では、新たに作品を設置すべきという論調よりも、今あるものの活用や、彫刻に留まらずにアートを広く捉えたイベントを実施してはどうか、といった論調である。	1983～	都市景観室	25作品	水上公園や榎田中央公園、博多駅前博多口広場等にシンボルとして設置	フクオカパブリックアートガイドの配布
長野県千曲市	オーダーメイド 大学との連携	多摩美術大学と「モニュメント制作協定」を締結し、学生や先生が制作した作品を設置してきた。 設置に当たっては、まず設置委員会で設置場所を選定し、その場所にふさわしい作品を学内コンペ形式で選定し、オーダーメイドで制作したものを市が買取り、設置していた。	1985～2000	都市計画課	64作品	沢山川親水公園、あんずの里観光会館、東部体育館等にシンボルとして設置	特になし
東京都立川市	大規模開発における 景観整備 寄贈	住宅・都市整備公団による米軍基地跡地の再開発計画(ファーレ立川)の一環として、「ファンクションをフィクションに」をテーマに、内外作家の109点のアートが街なかに設置された。立川市ではこれまでも各公共施設のシンボルとして彫刻を設置していたが、ファーレ立川の作品群は、立川市の顔となり、また世界的にも知られるパブリックアートとなっている。 これを受け、立川市では、「まち全体が美術館」をコンセプトにまちづくりを進めており、また2006年には「立川駅周辺アート化基本方針」を策定している。	1994(ファーレ立川 設置年)	地域文化課	166作品	ファーレ立川、立川駅前、立川市役所前等	ボランティア組織:「ファーレ倶楽部」 (アートガイド、清掃)